このページのテーマ　外科矯正治療について

下あごが前に出ている・しゃくれている・前歯で噛めない・あごが横にズレている・顔が曲がっているなど、矯正治療だけでは改善が難しい場合、あごの骨の手術も組み合わせて歯列を整える外科矯正治療を行うことも。そんな外科矯正治療について気になる疑問を田中矯正歯科の田中理事長に教えてもらいました。

Q 外科矯正治療とは？

A 外科手術と矯正治療を併用する治療方法です。ひどい受け口、噛み合わせがズレているなど、上あご・下あごの骨の位置や形、大きさが原因で顔が変形している「顎変形症（がくへんけいしょう）」、あご自体が抱える問題による「不正咬合・骨格性不正咬合」は、歯列矯正治療だけでは改善することが難しく、骨の形態の改善も必要となります。外科手術と歯列矯正を併用した治療により咬み合わせだけでなく、顔貌の改善も可能です。

Q 顎変形症ってどんな状態なの？

A 顎変形症には出っ歯など上あごの骨が大きく前に出ている、下あごの骨が後ろにさがっている、受け口で下あごの骨が大きく前に出ている、正面から見て顔面が非対称などがあります。骨格の顔面形態の変形と咬み合わせに異常がある状態は、外科手術との併用が必要となります。

Q 外科矯正治療の流れを教えて！

A まず矯正歯科医院で術前矯正をし、次に口腔外科等で外科手術を行います。手術後は矯正歯科医院で術後矯正を行うのが一般的です。外科矯正治療は、あごの骨を切って動かす「骨切り手術」を行う大学病院等の口腔外科と、歯列矯正を行う矯正歯科医院が連携して治療します。なお、外科手術の前に歯並びを矯正する「術前矯正」は、外科手術後にあごの位置が変わることを考慮して治療するため、一時的に歯並びが悪くなる方向へ歯を動かすことがあります。

Q 外科矯正治療は保険が適用されるの？

A 条件によって外科矯正の矯正治療や手術、入院などは健康保険が適用されます。保険が適用される条件は顎変形症と診断され、かつ厚生労働省の定める指定自立支援医療機関（育成・厚生医療）の条件を満たしている医療機関で指定された矯正治療を受ける場合のみ。形成外科や美容外科、外科矯正の保険治療を行っていない医療機関での治療は指定された医療機関以外での治療となるため、保険適用外になります。また、保険適用の矯正治療はブラケットを歯の表側に装着する唇側矯正（表側矯正）での治療に限られます。

Q 外科矯正の適用症例を教えてほしい

A 見た目だけでなく、発音しづらい・噛みづらいなど機能的に気になる顎変形症に外科矯正治療を行います。具体的な症例としては、上あごが前に出っ張っている「上顎前突症」、下のあごが前に出っ張っている「下顎前突症」、前歯で噛めない「開咬症」、正面からみてあごがズレている「顔面非対称症例」などがあります。

開咬症

上顎前突症

下顎前突症

主な顎変形症例（上顎前突症・下顎前突症・開咬症・顔面非対称症例）
顎変形症とは上下のあごの骨の形や大きさの異常、両者のバランスによる咬み合わせの異状、顔の変形といった症状が生じる状態のこと。主に上顎前突症・下顎前突症・開咬症・顔面非対称症例がある

Q 外科矯正治療後の効果は？

A 外科矯正治療により顔面骨格のバランスを良くするため、横顔や輪郭にコンプレックスを感じている方は顔立ちの改善を期待できます。また、噛み合わせが改善されることによって、発音しやすくなったり、食べ物を噛む行為が正しくできるようになり、食生活が改善するというとても大切な変化を実感いただけることが多いです。

Q 外科矯正治療の費用を教えて

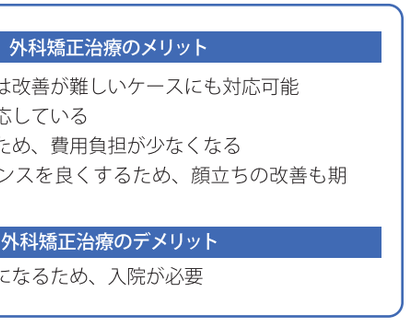
A 顎変形症は保険適用内。自己負担率3割と考えると、矯正治療費に20～30万円程度、手術・入院費に20～30万円程度となります。

Q 子どものあごがズレている。将来、手術をしたほうがいい？

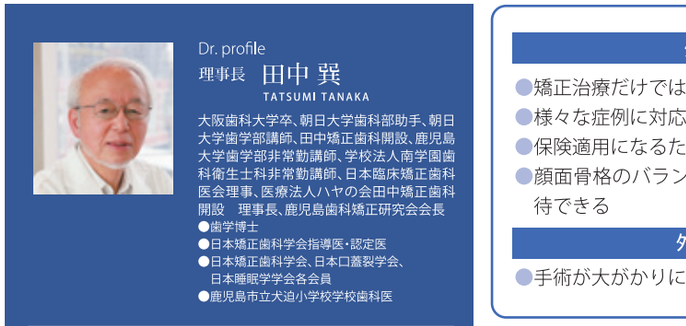
A 骨の成長が止まっている大人の場合は手術が必要です。一方、お子さんの場合は矯正歯科治療であごの成長をコントロールしてズレを改善することができ、将来的に手術をすることなくあごのズレを治療できる可能性もあります。気になることがあれば早めに相談することをおすすめします。

Q 顎変形症かどうかを判断する方法を教えて

A 顎変形症かどうかの診断は検査を受ける必要があります。歯並びなどで悩んでいる方は、まずは矯正歯科医院に相談してみましょう。当院では患者さんの悩みや状態をしっかり把握した上で適切な治療方法や期間、費用などを詳しく提示します。土・日曜、祝日も診療しているので、ぜひご相談ください。



矯正治療だけでは機能的・審美的な改善が難しい場合、外科手術を組み合わせて治療を行う



外科矯正により歯並びや咬み合わせなど口元の改善だけでなく、顔立ちや顔のバランスも変化する

手術の前に歯並びを整える「術前矯正」→「外科手術」→咬み合わせの最終仕上げをおこなう「術後矯正」の三段階で治療する

Dr. profile
理事長　田中 巽
TATSUMI TANAKA

大阪歯科大学卒、朝日大学歯科部助手、朝日大学歯学部講師、田中矯正歯科開設、鹿児島大学歯学部非常勤講師、学校法人南学園歯科衛生士科非常勤講師、日本臨床矯正歯科医会理事、医療法人ハヤの会田中矯正歯科開設　理事長、鹿児島歯科矯正研究会会長
●歯学博士
●日本矯正歯科学会指導医・認定医
●日本矯正歯科学会、日本口蓋裂学会、日本睡眠学学会各会員
●鹿児島市立犬迫小学校学校歯科医

Dr. profile
総院長　窪田 健司
TAKESHI KUBOTA

歯学博士
日本矯正歯科学会・認定医
インビザライン（マウスピース矯正）
ダイヤモンド・プロバイダー（5年連続）
（米国アライン社認定）
『Best of WIN Partner』（裏側矯正）授賞（4年連続）
●日本矯正歯科学会会員
●九州矯正歯科学会会員
●日本舌側矯正歯科学会会員
●日本顎変形症学会会員
●日本口蓋裂学会会員
●日本顎関節学会会員

外科矯正治療のメリット

- 矯正治療だけでは改善が難しいケースにも対応可能
- 様々な症例に対応している
- 保険適用になるため、費用負担が少なくなる
- 顔面骨格のバランスを良くするため、顔立ちの改善も期待できる

外科矯正治療のデメリット

- 手術が大がかりになるため、入院が必要

DATA　たなかきょうせいしか

医療法人 ハヤの会
田中矯正歯科
顎変形症保険適用医療機関
自立支援医療（育成医療、更生医療）
指定医療機関

TEL.099-257-9052

住　所　鹿児島市中央町21-14
駐車場　あり（5台）
アクセス　鹿児島中央駅より徒歩2分

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～13:00	／	／	／	／	／	○	○	○
13:00～19:00	○	○	／	／	○	△	☆	☆

△14:00～18:00 ☆14:00～17:00

ホームページ
田中矯正歯科　検索